事例No.	2870
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	栃木県

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

栃木県地域づくり担い手育成事業

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第5回）

都道府県名	栃木県
事　業　名	栃木県地域づくり担い手育成事業

概　要

○地域づくりに関わる人材の掘り起こしと地域づくり活動への定着及び継続性の確保を目指した研修プログラム（座学中心の「地域づくりスキルアップ講座」及び実地研修等が中心の「とちぎ地域づくりインターンシップ」）を実施。

創設経緯等

○平成２３年度から地域づくりや地域課題解決のためのワークショップを随時開催。

○平成 28 年度に地域づくりに関心のある若者などを対象としたワークショップや講座を組み合わせたプログラムにより、地域づくりの担い手を育成する事業を展開。

○令和３年度からは、地域づくりに興味がある若者向けに「とちぎ地域づくりインターンシップ（以下、インターンシップ）」、実践者向けに「地域づくりスキルアップ講座」のかたちに再編し、現在に至る。とちぎ地域づくりインターンシップでは、高校生や大学生などの若者中心と受講対象を明確化している。

○県庁内では、ある程度継続した事業として認知されている。令和３年度の事業再構築は、委託先への仕様書内容の変更にて対応。内容を検討する際には、これまでの実施結果を踏まえつつ、庁内の県民協働の担当部署などにも話を聞きながら行なっている。

事業の特徴

○若者が地域において、何かしらの「関わりしろ」が自力で見つけられるかと言えば、なかなかきっかけがないのが実情。本事業がその入り込みの機会を提供している点。

○学外の交流の場の提供となっている。学内にはない様々な考えをもった者との交流から新たな発見、気づきが生まれる。

○第二、第三の居場所の提供。親でも親戚でもない、教師でもない、同じ仲間、あるいは伴走支援するとちぎユースサポーターズネットワークの職員が兄姉のような存在となることで、第二、第三の居場所になっている。

○事業を実施するにあたって、コーディネーターであるとちぎユースサポーターズネットワークの職員は、公私を切り分けていない。兄、姉のような立場から様々な質問に答え、相談に乗っている。業務上だけの関係を超え、参加者との関係を深掘りしていくことを大切にしている。

○各インターン先の取組みに関心を持ってもらい、多くの受講生に、その取組みを継続してもらいたい。事業を通じて人材を増やし、インターン先はじめ地域づくり団体の活性化、団体相互の連携が図れればと期待している。

○主催者する県にとっては、受講生の若者やとちぎユースサポーターズネットワークのコーディネーターとのやり取りから様々な発見、気づきを得ている。またインターン先の活動の様

子など、庁舎内に居ては分からないことを知ることができる。

市区町村との連携等

○事業の参加者募集に際しては、各市町の地方創生担当部署等にも協力を得て、チラシ等の配架、配布を行っている。

○現在、市町との特段、連携は行なっていないが、講座の内容に「行政と民間との連携」といった視点も取り入れるように、市町にも関心を持ってもらうよう工夫している。例えば、スキルアップ講座では、市町職員に講師を務めてもらう場合もある。

○インターン先の活動は、住民に身近な社会課題ばかり。事業を通じて、これら活動の担い手となれば、間接的にも市町村の地域づくりに寄与するものではないか。

受講費等

○事業趣旨や対象者の年代等も考慮し、現状、対価の徴収について検討したことはない。

参加者属性等

○インターンシップは高校生から大学生がターゲット。今年度の受講生は 17 歳から 25 歳とほぼ狙い通りとなっている。今の 20～30 代の世代は、イベントに参加したいとの思いが強いと思う。

○受講動機は、大学で地域づくりの学部に所属し、実践とのことで受講する者、あるいはコロナ禍で課外活動が少なく悩みを持っていた者など様々。

○多くの受講生は、最初から「地域づくり」に取り組みたいと思って入り込んではいない。自分が気になること、やってみたいことなど、いわば生活の延長線上にあることに取り組んだ結果が「地域づくり」であり、周囲の笑顔を生み、感謝され、継続的な活動につながっていく。

○スキルアップ講座は、インターンシップよりも対象者の上限は高めに設定。結果的に、30 代、40 代が３割以上参加。この世代が一番地域との関係が疎遠と思っていたが受講いただいている。大きな発見だと思っている。

○受講生の属性として県外からの受講者もいる。彼らにとっては、ここでの居場所が今後の居場所にもつながり、関係人口にも繋がっていくそのような期待も持っている。

実施方式等

○公募型プロポーザルによる外部委託により実施している。本事業で狙いとしている若者層に対するアプローチや知見等多く有するとちぎユースサポーターズネットワークの企画提案を採用した。

○インターンシップもスキルアップ講座も、単に知識の伝授ではなく、人と人との関係形成も重視している。地域の未来を担う若者の誘い込みに、委託先であるとちぎユースサポーターズネットワークの知見を活かしながら様々に取り組んでもらっている。

受講生の反応等

○下段の「合同報告会&インターンマッチング会視察結果」参照。

○これまでも講座の参加者が、団体を立ち上げ、実践者向けの事業の講師となるなどの関わりができているケースがある。修了後も継続的に関わりを持っているか状況把握など努めており、なるべく関係が途切れないようにしている。

○インターン先で一緒になったもの同士などで SNS の交換など行なっているようであるし、情報伝達にはプラットフォームのウェブサイト「あしかもメディア（※)」を活用することもできる。

※：“若者×地域=ソーシャルグッド”をテーマに若者と栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトをつないでいく、県内唯一の総合地域メディア。
（https://ashikamo.media/about/）

意義等

○受講生達は「地域づくり」がしたい、と考えて来ていることは少ないと感じる。しかし、何か行動をおこしたいとは考えている。身近な人の笑顔を増やすために手を差し伸べたいとか、そういった暮らしの延長線上にある理想や願いを打ち出すことがこれまで薄かったのではないかと感じる。そういうことを設定することも必要なのではないか。

今後の展望

○社会の様子も３～５年で変わっていくので、それに合わせてプログラムの内容も検討していく。その変わり目に、起こりうる社会課題に対して、この事業を通じて、支える側の人材を増やして行きたい。魅力ある人や会ってみたい人に、うまく若者をつなげる仕組みが日常化できれば、ひとりひとりの自信にも繋がるのではないか。

○昨年度より現在の形になったため、当面は様子を見ていきたい。ただ、インターンシップの受入先については、受講生の選択の幅を広める意味でも拡大も検討していきたい。

○参加者の募集に対する周知の方法や、遠隔地にある団体への参加の方法（送迎等）が課題である。

その他（募集等）

○若者を対象としているので、様々な SNS メディアを活用。また、とちぎユースサポーターズネットワークの共有プラットフォーム的なウェブサイト「あしかもメディア」も活用し、興味関心のある若者にきめ細かく情報を届けている。

○ただ、いろいろ周知の方法は採っているが、直接会って事業の内容を伝えることが、実際の参加に繋がる確率を一番高めると感じている。

とちぎ地域づくりインターンシップ合同報告会＆インターンマッチング会　視察結果

１．日時と場所

日時：令和４年 12 月９日（金）午後６時 00 分～
場所：aret（アレット）栃木県宇都宮市西原１丁目 3-4

２．概要

10 月、11 月に行なわれた受講生の地域づくり団体での活動体験について、各団体でどのような活動体験を実施したかの報告。そして、これからの本格的なインターンに向け、各インターン先でどのような活動を予定しているか紹介。今後の受講生とインターン先とのマッチングを図るために設けられたイベント。

３．各インターン先での活動体験の報告

・小山市から委託を受けたまちづくり法人の事業の一環として、町歩きを通じた魅力発掘（自分が良いと思う所を必ず 10 枚写真を撮るなどのミッション）
・真岡市で妊産婦支援を行なう法人の、LINE による相談に対する回答の作成など相談対応のシミュレーション。
・放置竹林の課題に取り組み法人における、竹の伐採、竹クラフト作成、竹資源有効活用の企画など
・子ども食堂を運営する法人での、配膳、給食の手伝い等

４．参加者の感想等

・公務員志望で、県庁のホームページを見ていたらこの事業と出会った。参加すれば地域のことが良く分かるのではと思った。
・大学で地域活性化の専攻、大学から紹介され、現場を学べるのではないかと思った。
・地域に貢献する仕事がしたいと思い受講した。受講するまで、県内でこのような様々な取組みがなされていることは全く知らなかった。